

第47号(H31.3月)

小中一貫教育推進^{グループ}Gだより

平成31年3月15日

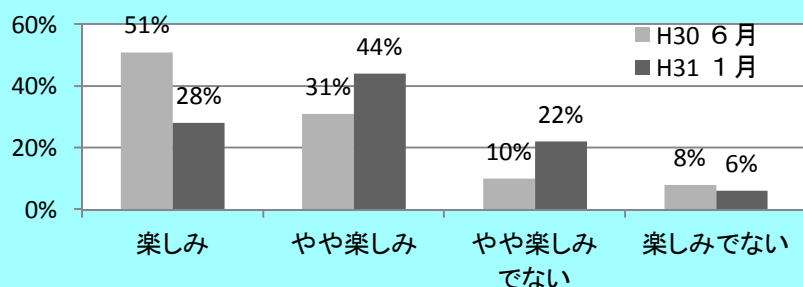
小中一貫に関する児童と教員の意識調査(アンケート) 結果と分析

《実施概要》

- 1 目的 小中一貫教育実施にあたり、小学6年生児童の中学校進学への意識調査、また教職員の小中一貫教育に対する意識調査を行い、小中一貫教育の取組の参考に資する。
- 2 対象 本市内小6全児童(回答数2976人)、全教職員(回答数1163人)
- 3 調査期間 平成31年1月8日～22日

児童アンケート

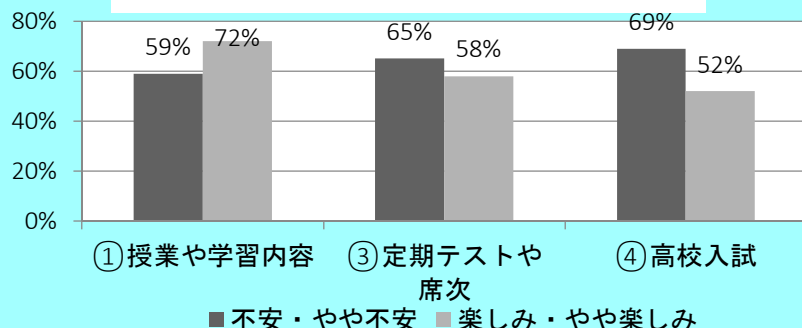
【問1】中学校は楽しみですか



H30.6月よりH31.1月は、肯定的な割合が減っている。中学の様子を知ること
で心づもりができ不安が減る面と、様子
を知ることによって現実と向き合い期待が薄れ
ていく面があるのではと考える。

「楽しみ」な項目としては、「部活動」
「中学校の行事」「新しい友達との関係」
が上位に挙がっていた。

【問2・3】中学校生活で不安なこと・楽しみなこと



「①授業や学習内容」「③定期テストや席次」「④高校入試」において、不安を感じる児童は6～7割と多いが、その反面楽しみにしている児童も5割以上いる。不安と期待が混在している様子がうかがわれる。学習に関する不安は、授業改善を通して小・中での学びを繋ぎ学習の楽しさを味わえるようにすることや、コーディネーターなど様々な先生との関わりや授業を通して、より緩和が図れるのではないかと考える。

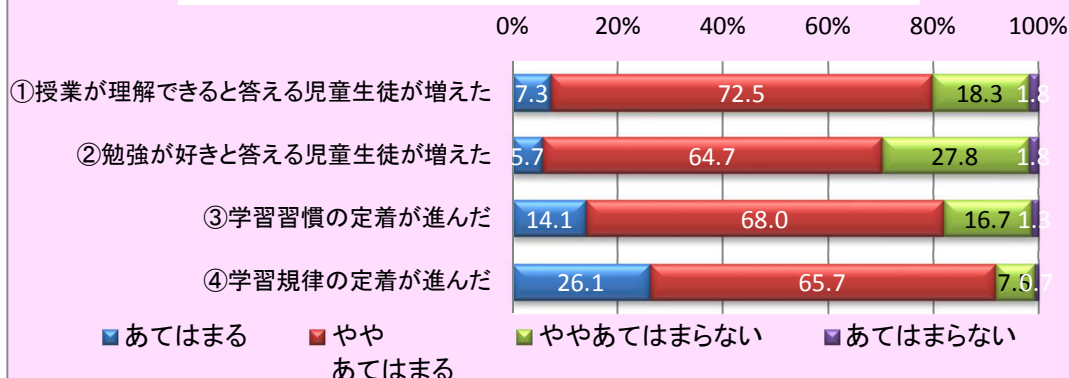
教員アンケート

肯定的意見がほぼ9割の項目

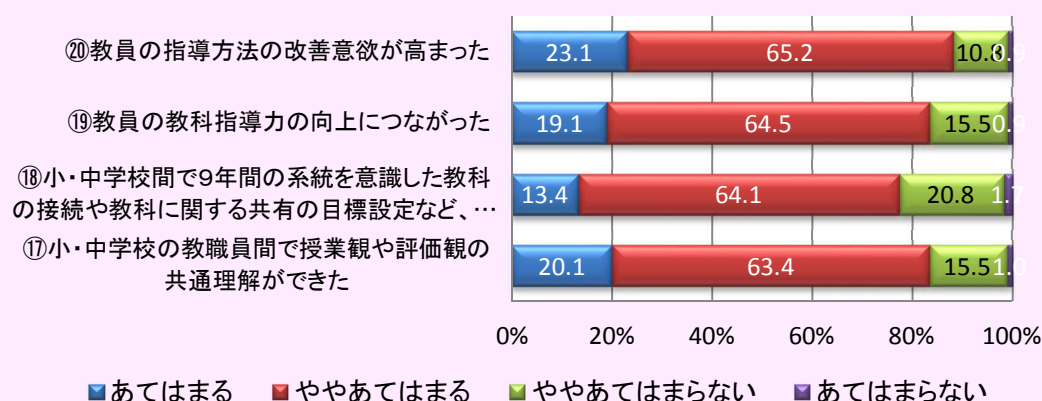
- | | |
|--------|---|
| 児童に関して | 中1ギャップの緩和、進学・進級への楽しみ |
| 教員に関して | 生徒指導等に関することすべて、研修の充実、職員間の協力、互いの良さを取り入れる意識 等 |

生徒指導主事連絡協議会を小中合同にしたこともあり、各グループにおいて生徒指導の連携の効果が表れていると思われる。また小中の教職員間で、小中一貫教育への共通理解や協力の意識が高まってきていると考えられる。

【児童・生徒に関して】 学習指導等



【教員に関して】 学習指導等

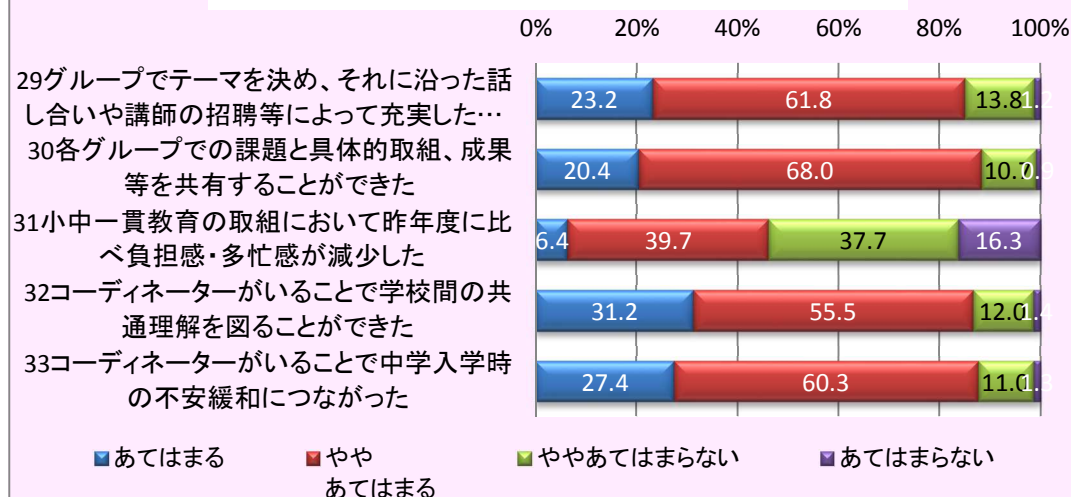


【児童・生徒に関して】問

③④より、学習習慣や規律は小中一貫教育を通して定着しているが、問①②がやや低いことから、児童の学習意欲を高めるような授業改善が必要だと考えられる。【教員に関して】全体的に8割を超しているが、⑱の系統を意識した接続において、やや低くなっている。

これらのことから、合同授業研究会を通して授業改善を図り、それを教科会、学年会、学級経営で一人一人が実践できるようにすることで、9年間の育ちにおける各学年の内容の確実な定着に繋がると考える。

【教員に関して】 那覇市の取組等



問②⑩については9割近くが肯定的であり、研修の充実がうかがわれる。

③④については、負担に感じている割合が高く、昨年度とほぼ変わっていない。取組を軌道に乗せ効果を実感できるような工夫が必要である。

問③③については、全体的に肯定感が高い。今後もコーディネーターの活用を推進する。

まとめ

- ・全体的には小中連携が円滑に進み、効果が表れてきていると思われる。
- ・【学習指導等】については、小中合同授業研究会における授業改善を通して授業の充実を図り、教師の授業力をつけるとともに児童・生徒に学習の楽しさを味わわせ、児童の不安改善にも繋がっていくことができると考える。
- ・教員の負担感については、全国的にも導入時には負担感が高い傾向がある。児童・生徒への効果が表れたり、取組が軌道に乗り無駄がそぎ落とされていったりすることで、負担感は徐々に減っていくと思われる。多忙感に関しては、効率的な運営の工夫やマネジメントの工夫が有効であると考えられる。ゆっくりではあるが効果は表れてきているので、今後もさらに取組を進めていきたいと思う。